

学力調査等の状況	
令和6年度の本校の全国学力学習状況等の調査の平均正答率は、国語が58%、数学が53%であった。この結果は全国の平均正答率(国語58.1%、数学52.5%)に対して若干ポイントが高いものの、東京都の平均正答率(国語61%、数学57%)に対しては下回るものとなった。	

見えてきた課題	
国語では「思考・判断・表現」を問う問題に対して平均正答率が高かった。一方で「知識・技能」に関する問題の平均正答率が低く、語彙が少ないなど活字を読む体験が少ない可能性が読み取れた。数学は「知識・技能」を問う問題の平均正答率が高かった。一方で「思考・判断・表現」を問う問題の正答率が低く、文章問題を解く力などに課題が見られた。	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	交流型のアプリや、フォームなどを用いて協働的な学習を取り組む。またワークシートやQubenaなどを用い、学習の個別最適化を図る。
価値ある対話の共有	各教科の特質に合わせて「思考・判断・表現」する力を育成する場面を単元のなかで取り組む。
振り返りの設定	生徒が自分の学習の達成度を確認できるような場面や、記録をとることにより主体的な学習の態度を涵養する。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
国語科	○話し合いや発表などといった言語活動を通して多面的・多角的な思考を獲得し、主体的な学習態度につなげていく。 ○根拠をもとにして文学的文章や論説文の内容を読み取り、自分の考えを形成できるような授業の工夫を行う。	・帯活動で漢字練習を行い、漢字の定着を図る。 ・ICT機器の活用や発問の工夫により、国語への興味関心を引き出す。 ・グループ活動を行い、多面的・多角的に物事を考えられる力を身に付ける。	・知識・技能の向上においてプロジェクターやQubena活用し、学力の定着を図る。 ・各単元で「話すこと・聞くこと」「書くこと」の「思考・判断・表現」の向上を図る言語活動を取り入れる。 ・振り返りの時間を設け、ねらいと学習内容を関連付ける。	・ICT機器を使い、知識・技能の向上を図る。 ・各単元で「話すこと・聞くこと」「書くこと」における「思考・判断・表現」の向上を図る言語活動を取り入れる。 ・振り返りの時間を設け、主体的な学習態度につなげる。
社会科	○多面的・多角的に思考ができるよう、ICT機器を活用し、授業の工夫を行う。 ○授業内で、できた・分かったと生徒が感じられる場面が増えるよう、質問・発問の工夫を行っていく。	・Qubenaを用いて個別学習につなげる。 ・振り返りシートを活用して、自分の学習の達成度を確認できるようにするとともに、生徒の学習の到達度を確認していく。	・交流型のアプリを活用して協働的な学習に取り組む。 ・Qubenaを用いて振り返り活動を行い、個別学習につなげる。 ・振り返りシートを用いて、生徒が自分の学習の達成度を確認できるようにする。	・ク롬ブックを活用して、振り返りを行うことで、個別の習熟度を確認する。 ・授業時の発問、グループワークを取り入れ、多角的多面的に物事を考える力を身に付ける。
数学科	○習熟度別少人数授業2学級3展開において、発展クラスの授業では、中間層の生徒を伸ばすために、その生徒たちを中心に机間指導を行う。また、基礎クラスでは既習事項を丁寧に繰り返し取り組む。	・周りや協力して問題に取り組んだり、教え合いの時間を確保したりすることで、主体的に授業に取り組めるようにする。 ・反復学習と授業の振り返り学習のサポートとしてQubenaを活用し、個別最適な学習を目指す。	・グラフや図形の問題に関しては、ICT機器を活用して、イメージしやすいように工夫を凝らす。 ・計算問題等はワークシートを用いて反復学習を行うことで、基礎基本を確実に身に付けさせる。 ・Qubenaを用いて振り返り学習を行い、個別学習に生かしていく。	・ICT機器の活用により、数学への興味や関心を高めていく。 ・文章問題を多く取り入れ、「思考・判断・表現」の能力の向上を図る。 ・振り返りシートを用いて、単元ごとの理解力を確認し、主体的に考えさせる機会を設ける。
理科	○ICT機器を効果的に使用し、実物等を見せることで導入などを工夫し、生徒の学習意欲を引き出す。 ○一人一台端末を活用し、実験結果のまとめや考察などの共有方法を工夫する。	・各教室に設置されたプロジェクターを活用し、板書を効率的に行い、より多くの視覚的資料を提示する機会をつくる。 ・ICT機器やホワイトボードを活用し、一人一人が考えたことを班で共有したり、発表したりする場面を設定する。	・ICT機器を活用し、映像資料などを多く掲示することでイメージをもった理解につなげる。 ・ICT機器を用いて実験結果や考察を班で共有し、協力して考える場面を設定する。 ・Qubenaを活用し、学習したことの振り返りを行う。	・授業の始めにQubenaのワークブックを使って1, 2年の学習内容の復習を行い、学習の個別最適化を図る。 ・ICT機器やホワイトボードを活用し、一人一人が考えたことを班で共有したり、発表したりする場面を設定する。
音楽科	○音楽を楽しく表現できるための技能の習得をわかりやすく指導する。 ○生徒間で互いに協力し合い成果を出せる学習活動を行う。 ○学習の課題達成が評価につながるように学習活動を行っていく。	・音楽の基礎基本が定着するように丁寧に指導する。 ・ワークシートを活用し、生徒が課題を発見しながら活動に取り組めるようにしていく。 ・パートリーダーの役割とパート練習のやり方を説明し、練習の内容と成果について話し合いをさせる。	・ワークシートを活用し、課題を発見しながら活動に取り組めるようにしていく。 ・パートリーダーを中心に課題を解決する方法を考えさせながら学習活動をさせていく。 ・資料提示にICT機器を効果的に使い、学習課題に取り組む手立てにする。	・ワークシートを活用し、生徒が課題を発見しながら活動に取り組めるようにしていく。 ・学習課題がどのように評価につながるのかを説明し、個人内評価の場面も設定する。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
美術科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○美術の表現、鑑賞が面白いと感じるような知識、技術の習得をICT等を利用してわかりやすく指導する。</li> <li>○生徒が互いにアドバイスや意見を発表する場を積極的に設ける。</li> <li>○作品を校内に展示し、作品を鑑賞する場面を広く設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術に関する基礎基本の知識と技能の定着を目指す。</li> <li>・感じたことや考えたことをその都度言葉にし、一時間おきの授業の達成感を生徒がもてるようにする。</li> <li>・最後まで丁寧に作品を完成させる力を身に付ける。</li> <li>・資料掲示にICT機器を効果的に用いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一学年で学んだ基礎・基本をもとにさらに自分らしい表現活動ができるよう指導していく。</li> <li>・作品の制作過程において、互いに文章でアドバイスし合う場面を設ける。</li> <li>・他の人の作品から、そのよさを積極的に見出そうとする。</li> <li>・資料掲示にICT機器を効果的に用いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んで習得してきた知識や技術を用いながら、より自分らしい表現を目指す。</li> <li>・毎時間ごとの記録、振り返りを通して自分なりに課題を設定し、計画性をもって制作に取り組みるよう指導していく。</li> <li>・感じたこと、考えたことを言葉にして堂々と発表できる姿勢を育てる。</li> </ul>
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話を注意深く聞く態度を育てると共に、集団で行動することの大切さを学ばせる。</li> <li>○単元の目標を明確にし、協力・競争の意識を高める。</li> <li>○基本的な運動能力を向上させるため、毎時間の腹筋・腕立て伏せ・馬跳び・タイムトライアルを定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育委員が中心となって自主的自発的に行動できるように働きかけ、集団として行動できるように指導していく。</li> <li>・基礎的基本的な技能の習得に重点を置き、ICTなどを活用し、自分の動きを確認したり、他者の動きを参考にしたりし、それをもとにグループで話し合う活動をとおり、より学びを深める活動にしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育委員が中心となって自主的自発的に行動できるように働きかけ、集団として行動できるように指導していく。</li> <li>・身に付けた基礎的基本的な技能の習得に加え、自主自律できるよう生徒自らの動きを促すようにする。グループで話し合う活動をとおり、より学びを深める活動にしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育委員が中心となって自主的自発的に行動できるように働きかけ、集団として行動できるように指導していく。</li> <li>・過去2年間の集大成として、自主自律による授業を目標とする。互いの意見を尊重し生徒自らの動きを促すようにする。グループで話し合う活動をとおり、より学びを深める活動にしていく。</li> </ul>
技術・家庭科	<p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○題材のねらいを明確にし、製作活動に積極的に取り組む姿勢を育てる。</li> <li>○学習を通して知識を身に付けさせ、その力を作品づくりに活用させる。</li> </ul> <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実践的・体験的学習を通して、基礎的な技術と知識を習得させる。</li> </ul>	<p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工具の基本的な使い方を身に付けさせ、技能の定着と向上を目指す。</li> </ul> <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活を豊かにする作品の制作を通して技術と知識を習得を図る。さらに振り返りの時間を設定したり、作品を通じてお互いを認め合い、主体性を育む。</li> </ul>	<p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・端末を用い映像資料を活用し、活動の見通しをもたせる。</li> <li>・制作した作品を見合い、互いの良さを認め合い、主体性を育む。</li> </ul> <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在調理実習の事前学習で、ICT機器を活用し食に対する理解を深める。</li> </ul>	<p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2年生の経験をもとに効率のいい作業ができるように見通しをもった活動ができるようにする。</li> </ul> <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の事前学習で、ICT機器を活用し幼児の行動などについて理解を深め、社会の一員であるという自覚を意識させる。</li> </ul>
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4技能(聞く、読む、話す、書く)をバランスよく伸ばすように指導し、単語力、文法力を身に付ける。</li> <li>○生徒の話す力を伸ばすために、ペアワークやグループワークを意識的に取り入れる。また、お互いの良さを認めたり、お互いの人格を尊重したりできる心を育てる活動となるように努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的な視点でフォニックスの教材に取り組み、初見の単語でも発音を推測できるようになることを目指して指導していく。</li> <li>・文法の導入の際はアクティビティを取り入れて発話する機会を演出する。文法の定着具合を鑑み、問題演習の時間を増やしていく。</li> <li>・Qubenaを家庭学習で活用できるように、使い方等を指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書を活用しながら、言語活動を実施していく。</li> <li>・お互いの意見を伝える活動や、プレゼンテーションソフトを活用した発表を実施している。少人数編成による授業において、合意形成を図りながら進めていく。</li> <li>・振り返り活動を実施し、達成度や今後の課題を確認していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読むことや聞くことを多く行った反面、書くことや話すことを行う時間があまり確保できなかったため、より適切に4技能が習得できるように授業を計画していく。</li> <li>・ペアワークやグループワークに関しては、授業中多くの場面で取り入れることができた。今後は作業内容について、より効果的なものになるよう工夫する。</li> </ul>
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校として「他者と共に生きる心」「命の大切さ」を重点化し、学校の教育活動全体を通して、人権尊重の精神に基づく豊かな心情を培い、教育目標に掲げる「たくましく生きる生徒」を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間振り返り記録を記入し、授業を通して考えたことや学んだことを振り返ることで、主体的に取り組む力を高める。</li> <li>・クラスメイト同士で考えを共有し、お互いを知ることで、自己理解を深め、他者理解する気持ちを育みながら、たくましく生きる生徒を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャムボードなどの交流型アプリを活用して、学級全体で意見を共有しながら他者理解と自己理解を深める。</li> <li>・毎時間振り返りを記入し、授業を通して考えたこと感じたことを振り返ることで、自身の考えを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間振り返り記録を記入し、授業を通して考えたことや学んだことを振り返ることで、主体的に取り組む力を高める。</li> <li>・生徒同士で考えを共有し、お互いを知ることで、自己理解を深め、他者理解する気持ちを育みながら、たくましく生きる生徒を育む。</li> </ul>
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「共に生きる」を学校全体での共通テーマとし、3年間の一貫性のある計画に基づき、教科等で学んだ知識・技能を総合的・横断的に活用する学習を通して、日常生活から社会生活まで視野を広げ、主体的に生きる力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村体験移動教室や職業調べ、校外学習において、プレゼンテーションソフトを活用した調べ学習や発表を行うことで、学習課題の理解を深める。</li> <li>・学習新聞を作成し情報発信の活動を行うことで、自分の考えをまとめ、表現する力を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験の事前学習において、インターネットを活用した調べ学習を通して、仕事についての理解を深めた。</li> <li>・事後学習において、事業所ごとに新聞づくりを行い、自分の考えや気持ちの変化などをまとめ、表現する力を身に付ける。</li> <li>・職業講話を通して仕事・職業への理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行の事前学習においてプレゼンテーションソフトを活用した調べ学習や発表を行うことで、学習課題の理解を深める。</li> <li>・事後学習では行動班ごとに新聞づくりを行い、情報発信の活動を行うことで、自分の考えをまとめたり、表現する力を身に付ける。</li> </ul>

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
特別活動	<p>○行事の「ねらい」が達成されたかを生徒アンケートで確認し、その後の学校生活に活かすようにする。</p> <p>○異年齢集団で行う活動の場面をつくり、リーダー性やコミュニケーション能力を育み、集団として自治的な力を養う。</p>	<p>・学級や学校での生活をよりよくするための課題を見出し、学級や専門委員会において課題解決のために話し合い、自主的、実践的に取り組むことを通して、集団の中での行動の仕方を身に付けさせる。</p> <p>・アンケート作成ソフトを活用し、行事ごとのアンケートや、学級や学年の生活アンケート等を実施し、学級活動や生徒会活動の充実を図る。</p>	<p>・行事ごとに学級で話し合う機会をつくり、課題や改善点、長所を見出すことで集団としての自治的な力を養う。</p> <p>・班長会議を設定して、リーダー性を育成する。また、各生活班でそれぞれに役割を持たせ、集団の中での行動の仕方を身に付けさせる。</p>	<p>・学級での生活をよりよくするための課題を見出し、課題解決のために話し合い、自主的、実践的に取り組むことを通して、集団の中での行動の仕方を身に付けさせる。</p> <p>・アンケート作成ソフトを活用し、行事ごとのアンケートや、学級や学年の生活アンケート等を実施し、学級活動や行事の充実を図る。</p>